

平成27年度部長マニフェスト取組結果

部(局)名	地域教育部
部(局)長名	川下 貴弘

【達成度について】
 A：達成（設定した目標を達成することができた。）
 B：一部達成（設定した目標の一部のみ達成することができた。）
 C：未達成（目標達成に向け取り組んだものの、目標達成にはいたらなかった。）

重点課題 2 地域の青少年育成活動を支える団体・個人との協働による豊かな地域教育コミュニティづくりの推進

全体の達成度

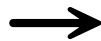
A

達成

目指すべき方向 「わが都市すいたの教育ビジョン」及び地域の教育力の向上と教育コミュニティづくりの更なる推進を目指します。また、子どもたちの放課後の居場所としての「太陽の広場」などの事業（こどもプラザ事業）と、青少年室が所管する各施設の機能を生かした健全育成の取り組みを充実させます。

活動目標

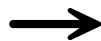
青少年の居場所づくりと地域教育コミュニティづくりを推進します。



具体的な取組実績

地区青少年対策委員会に対して支援を行い、地域の特色を活かした様々な青少年健全育成事業を実施しました。
 地域教育協議会に、地域教育コミュニティ事業を委託し、学校・家庭・地域の三者が一体となって事業を実施しました。これらの青少年を対象とした事業の実施により、青少年の健全育成、地域のネットワークづくりを推進しました。また、青少年対策委員会連絡協議会、地域教育協議会代表者等連絡会をそれぞれ2回開催し、意見交換や情報交換を行いました。
 平成27年4月に新設された千里丘北小学校におきまして、保護者説明会、見学会などを開くとともに、子どもたちが参加できる運動チャレンジコーナーの開催、体験を行いました。これらの取り組みをきっかけとして、子どもたちを見守るフレンドの協力が得られることになり、平成28年1月より太陽の広場を開催することができました。また、東佐井寺小学校の太陽の広場が文部科学大臣表彰を受け、吹田市の放課後の取り組みが高く評価されました。

各青少年施設の機能を生かして、青少年の健全育成に取り組めます。



各青少年施設（青少年活動サポートプラザ、青少年クリエイティブセンター、自然体験交流センター、少年自然の家）の特色を生かした施設運営により、青少年の健全育成を図りました。
 青少年活動サポートプラザでは、平成26年10月から指定管理者により貸館業務においてインターネットによる予約システムを導入し、利用者の利便性が向上したことにより、貸館の利用者は、平成26年度と比較して、利用者数で4.0パーセント増加しました。また、学習室等の貸館以外の利用者数も12.0パーセント増加しました。
 青少年クリエイティブセンターでは、青少年の人権意識の醸成を図るための事業を行うとともに、29歳までの青少年を対象に活動の場の提供を行いました。自然体験交流センターの運営に当たっては、事務連絡会を毎月1回開催するなど、指定管理者と連携をしながら事業の充実に努めた結果、43,872人、831団体、利用率89.3パーセントの実績となりました。また、平成28年度から、使用料見直しを行い、高校生又は18歳未満の市民については無料とするなど、更に市民が利用しやすい施設を目指します。
 少年自然の家では利用人数等の要件の緩和と使用申込期間の拡充、ホームページ等による情報発信の強化、休所日の臨時開所等の取り組みを行い、利用しやすい施設運営を図りました。また、環境教育の取り組みとして自然環境を活用した事業として「自然観察会」を実施しました。これらの取り組みにより、平成26年度と比較して、団体数41件、利用率で3.5%の増加となりました。



平成27年度部長マニフェスト取組結果

達成目標		達成状況	達成度
子育て青少年拠点夢つながり未来館（ゆいびあ）については、青少年支援、子育て支援、図書館の3つの機能の連携をいっそう深めるとともに、関係機関との連携により、青少年相談事業の充実をめめます。	→	青少年相談事業においては、相談者が自立へのアプローチとして、のびのび子育てプラザや山田駅前図書館において実践の場を提供しました。また、教育センターとはお互いの施設を訪問し、「社会的ひきこもり」吹田市ネットワーク会議を年7回開催するなど、担当者同士の顔の見える関係を築くとともに、より良き相談体制を築いていくための勉強会を開催しました。また、未来館全体でのイベントを2回行い、そのうち3月26日に開催した5周年記念事業では、多くの未来館利用者やボランティアの協力を得ながら、トークショーや青少年によるダンスやバンド演奏などのほか、クラフトや実験教室など様々なコーナーを設けて、約1,500人の方にご来場いただきました。	A 達成
子どもたちの放課後の安全・安心な居場所として、各小学校で実施している「太陽の広場」事業について、全36小学校での実施と市民主体の協働と継続可能な制度を目指します。	→	平成27年4月に開校した千里丘北小学校でも、平成28年1月から太陽の広場がはじまり、吹田市内全36小学校での取り組みとなりました。また、避難訓練や連絡会議などを開催し、太陽の広場と留守家庭児童育成室との連携を図りました。	A 達成
青少年クリエイティブセンターについては、人間性豊かな青少年を育成するため、青少年の自主的な活動を支援しながら、事業運営をより一層進めます。	→	設置目的である「すべての人権問題と社会的課題の克服を青少年自らの課題として受け止め、その解決を目指す人間性豊かな青少年の育成を行う」ことを念頭に体験活動事業・養成事業・学習支援事業・利用者交流事業・人権講座などの様々な事業を行いました。また、青少年会館のプレイルームや、体育館、運動広場等を活動の場として提供し、青少年クリエイティブセンターの利用を通じて異なる学校、地域、学年の利用者同士のつながりを作り、利用者同士が時間を共有する中で、自分を大切にするとともに他の人のことも大切に考え、態度や行動に表すことができるよう共に学び共に成長することを目指しました。	A 達成

達成目標		達成状況	達成度
各青少年施設（青少年活動サポートプラザ、自然体験交流センター、青少年クリエイティブセンター、少年自然の家）を利用する子どもたちが様々な経験や活動を通じて心豊かに成長できるよう各施設が連携し、事業の充実と効率化を図ります。	→	9月15日に青少年活動サポートプラザで、青少年室の所管する4施設からなる施設連携会議を開催し、それぞれの施設の特徴ある取り組みなどを紹介し、意見を交わしたことで、各施設の運営や事業の充実を図ることができました。	A 達成

総合評価・総括

核家族化の定着や各家庭のライフスタイルの変化により、青少年を対象とした地域活動が衰退する中においても、地域での異年齢による交流や地域の大人との交流は、子どもたちの健全な成長には欠かせないものであると考えます。

今後も、青少年が健やかに安心して安全に地域で活動できるよう、仲間づくりや居場所づくりに取り組み、「地域の子どもは地域で育てる」ことを目標に、家庭・地域・学校が連携し、青少年の成長を支援する体制づくりを進めます。また、自然環境や人権教育、学習活動など青少年施設を有効に活用し、施設間の連携を図りながら、それぞれの特徴を生かした運営により、青少年の成長を支える環境を充実します。